

## 既存ストックを活用した持続可能なまちづくり ～瀬戸の都・高松～

### 1. はじめに

高松市は、北は多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、南は徳島県境に至る、海・山・川など恵まれた自然を有する広範な市域の中に、にぎわいのある都心やのどかな田園など、都市機能・水・緑が程よく調和し、豊かな生活空間を有する、人口約42万人、面積約376km<sup>2</sup>の都市です。

年間を通して寒暖の差が小さく、降水量が少ないのが特色で、恵まれた風土と地理的優位性を生かし、昭和63年の瀬戸大橋開通、平成元年の新高松空港開港、16年の新しい都市拠点サンポート高松のオープンなどを経て、県都として発展を続けてきました。

「活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松」を目指し、都市的利便性と自然的環境が享受できる都市の実現に向け、持続可能なまちづくりを進めています。

### 2. 本市の課題と取組

本市では、平成16年に市街化区域及び市街化調整区域の区域区分、いわゆる「線引き」の廃止以降、市域内における居住人口の維持などの効果が見受けられるものの、郊外部での宅地化の進展など、低密度な市街地拡大による社会基盤の管理運営コストの増大等の課題に直面しています。こうした課題に対応するため、都市計画と交通計画を両輪とし、公共交通を軸として、人々の移動を束ねていく形での土地利用を促す、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりに、重点的に取り組んでいます。

### 3. インフラストックを活用した、持続可能な公共交通ネットワークの再構築

交通計画においては、平成25年度に「高松市公共交通利用促進条例」を制定し、26年度に「高

松市地域公共交通網形成計画」を策定以後、既存ストックである鉄道を基軸とし、バスをフィーダーとする持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向け、交通結節拠点として2つの鉄道新駅を整備するとともに、現行バス路線の再編に取り組んでいます。

需要に合わせたバス路線の最適化を図るためには、再編によるバスを受け止める交通結節拠点が必要であることから、既に整備された幹線道路と鉄道との交差部に新駅を整備し、コストの抑制を実現しつつ、接続性を確保していく計画を策定し、進めています。

この新駅整備の考え方は、鉄道インフラと道路インフラを結節させることにより、ストックを最大限に活用し、電車、バス、自動車や自転車等の多様なモードを結節させることを可能としており、マルチモーダルな交通体系に寄与するものです。

新駅整備は、「駅舎」「線路の複線化」「駅前広場」の3つの事業から成り立っており、駅前広場については、街路事業として社会資本整備総合交付金により整備を進め、令和3年11月のことでん新駅「伏石駅」のグランドオープンとともに、バスの再編路線での運行が開始されました。



ことでん新駅「伏石駅」



高松市長 おおにしひでと  
大西 秀人

#### 4. 集約型都市構造の核となる中心市街地の活性化～基幹事業としての市街地再開発～

一方、都市構造の集約化に向けては、本市の核となる中心市街地の活性化が重要と考えております。中心市街地に位置する中央商店街は、8つの商店街からなり、アーケードの総延長が約2.7kmを誇る全国有数の商店街です。

しかし、中央商店街においても、昨今のモータリゼーションの進展と郊外部の幹線道路沿道に大規模な店舗が立地したことなどにより、空き店舗の増加、歩行者通行量の減少が見られるようになりました。

このような中、人口減少時代を見据えた「コンパクト」で持続可能なまちづくりを目指し、市街地再開発事業による中心市街地の整備改善や街なか居住の推進に取り組んでいます。

中央商店街の北端に位置する丸亀町商店街では、地元主導による市街地再開発事業等に、計画的に取り組んでおり、平成18年から24年にかけて、4つの街区で事業が完了し、商店街の空き店舗率の改善、歩行者通行量及び居住人口の増加に効果が現れており、本市の経済・商業活動をけん引しています。

また、現在、大工町・磨屋町地区において、着手している市街地再開発事業は、令和元年に国の認定を受けた「第3期高松市中心市街地活性化基本計画」においても、地域価値の向上とコンパクトシティの形成に向けた基幹事業として位置付けており、今後も、必要な都市機能が確保され、地域の活力と魅力を高める中心市街地の活性化に取り組むこととしています。

#### 5. 住宅ストックの有効活用による、都市構造の集約化に向けて

市域を広範囲に見ますと、住宅総数が全世帯数を大幅に上回っており、空き家が増加傾向にあります。特に中心市街地や用途地域内を中心に空き家が点在している状況です。

そこで、将来的に持続可能なまちづくりを目指していくため、平成30年3月に「高松市立地適正化計画」を策定し、居住誘導区域へ居住の誘導を行うことなどにより、都市構造の集約化に取り組んでいます。

このような居住誘導に当たっては、市街地再開発事業や民間の共同住宅といった新たな住宅ストックを整備していくことに加え、空き家発生の未然防止や流通促進といった、既存の住宅ストックを有効に活用していく総合的な住宅施策に取り組むこととしています。

#### 6. おわりに

令和4年2月には、一般社団法人全日本建設技術協会の建設技術講習会が高松市において開催されます。同講習会の現場研修では、船舶の増加や大型化への対応を目的として整備されている「高松港朝日地区 複合一貫輸送ターミナル」(事業主体: 四国地方整備局)等の現場視察を予定しています。

本市は、城下町として発展してきたことから、歴史・文化遺産が多く、国の史跡及び天然記念物に指定されている屋島を始め、日本三大水城の高松城跡で、庭園美が堪能できる玉藻公園、国の特別名勝に指定されている栗林公園など、数多くの景勝地があり、風光明媚な瀬戸内海の景観と共に皆様をお出迎えいたします。また、新型コロナウイルス感染症も油断できない状況でありますので、密を避けるなどの感染防止対策を講じながら、皆様の御参加を心からお待ちしております。